

ユネスコ世界ジオパーク 再認定審査

7月11日(火)～13日(木): 市内ジオサイト

ユネスコ世界ジオパークでは、その質を保つため、4年に1回の再認定審査が行われます。

先日、糸魚川ジオパークにとって2回目となる再審査がフォッサマグナミュージアムなどを中心にして実施されました。

審査に訪れたのは、ユネスコが任命した2人の地質学者。連日の猛暑のなかでしたが、熱心に市内ジオサイトを視察、審査しました。

最終日に行われた審査集約では、「文化と歴史と固有の地質が非常によく融合されている」と、評価していただく場面もありました。



マイクを持つのはフィンランドからお越しのヤリ・ネノネン氏。その手前がシーミン・ファン氏(中国)。



フォッサマグナパークでは、今年10月にはじまる改修工事の内容について説明しました。

「カチューシャの唄」 知音都市交流会

7月14日(金): ヒスイ王国館

日本初の流行歌「カチューシャの唄」を縁に、当市と長野県中野市、長野市、鳥根県浜田市の4都市の市民団体が、平成元年から交流を深めています。

先日、年に1度の交流会が、当市において開催され、これを記念して有限会社サザンカンパニー代表の長岡弘志さんから「芸術座と神楽坂のまちおこし」をテーマにご講演いただきました。

その後、短歌木蔭会代表の堀口良作さんが持参された蓄音機とラップホーンで、「カチューシャの唄」や「春よ来い」などを鑑賞。やわらかな音に包まれ、参加した皆さんは懐古の念に浸っていました。



講師は、劇団「芸術座」の100周年イベントを企画してきた長岡弘志さん。



音楽に合わせて小さく指揮を執る人、口ずさむ人など。聴く人の心を魅了していました。